

課題名	7 良食味品種の移植期、前作が異なる場合の安定栽培法	分類	①
	水稲品種「キヌヒカリ」の作期別生育特性と安定栽培法		
試験研究年次	63～2年(完了)		
<p>I 目的</p> <p>水稲の極早生良食味品種「キヌヒカリ」の移植時期別生育特性を明らかにし、良質安定栽培のための目標生育量や施肥量を検討する。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験実施場所 農産研究所 第2水田 7号圃、12号圃 豊前分場1号圃</p> <p>2 供試品種 キヌヒカリ、コシヒカリ(比較)</p> <p>3 栽培様式 移植栽培; 稚苗(苗齢1.5～2.4L)、おぼろ苗(苗齢3.7～4.1L) 栽植密度; 30cm×15cm(22.2株/m²)、1株4本植、おぼろ苗は1株3本植</p> <p>4 移植時期 4月20～25日、5月6～8日、6月9～10日の3水準</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>「キヌヒカリ」の早期及び普通期栽培での生育特性と最適施肥法をコシヒカリ対比で明らかにした。すでにキヌヒカリについては1年度研究成果情報として報告しているが、本成果は2年度のデータを加えて、成果情報の充実を図ったものである。</p> <p>1 生育特性</p> <p>(1) 生育ステージ; 出穂・成熟期は各移植期とも、コシヒカリとほぼ同時期である。4月下旬～5月上旬植の早期栽培では、8月下旬に成熟期となる。4葉程度のおぼろ苗を用いることにより、4～5日早進化が可能となる。</p> <p>(2) 穂数と穎花数; 移植時期が早いほど、単位面積当たり穂数、穎花数が多い。また、コシヒカリに比較して穂数は各移植時期とも10%程度少ない。1穂当たり穎花数はコシヒカリとほぼ同等であるが、穂数が少ないため単位面積当たり穎花数は10%程度少ない。</p> <p>(3) 耐倒伏性; 稈長はコシヒカリより8cm程度短く、耐倒伏性は勝る。移植時期による稈長の変化は少ない。</p> <p>(4) 収量と目標穎花数; 収量は移植時期が4月下旬～6月上旬の範囲では早いほど多い。収量からみた最適穎花数は、早期栽培ではm²当たり30,000程度で、この場合、600～550kg/10a程度の収量が期待できる。普通期栽培では27,000程度で収量目標は500kg/10a程度である。コシヒカリに比べて同一の穎花数では多収となる。</p> <p>2 最適施肥量(Nkg/10a)</p> <p>(1) 基肥量; 最適な穎花数を確保するために必要な基肥窒素量は、コシヒカリに比べて1.0～2.0kg増肥する必要がある。一般水田における最適な基肥量は、早期栽培では5～6kg、普通期栽培では4～5kgである。</p> <p>(2) 穂肥量; 第1回穂肥は早期栽培では1.5～2kg(出穂前22～18日)、普通期栽培では1.5kg(出穂前20～16日)とし、第2回穂肥はいずれも第1回穂肥の7～10日後に1.5kg施用する。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 移植期、苗の種類と生育・収量

品種	苗の種類	移植期 月.日	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	倒伏 程度	㎡当たり		玄米重 kg/10a	検査等級
							穂数	穎花数		
キヌヒカリ	稚苗	4.20~25	7.17~25	8.23~30	76	0	418	337	640	1下
	ホト苗	5.6~8	.17~25	.23~26	76	0	391	318	620	1下~2上
	稚苗	"	.22~29	.29~9.3	76	0	360	286	600	1下
	ホト苗	6.9~10	8.7~9	9.18~20	74	0	309	262	530	1下
コヒシカリ	稚苗	"	.11~13	.19~23	75	0	324	262	550	1下
	稚苗	4.20~25	7.18~25	8.22~31	82	2.2	440	349	630	1下
	"	5.6~8	.23~29	.30~9.4	86	1.4	394	325	600	1下
リ	"	6.9~10	8.11~13	9.21~22	84	2.0	367	302	560	1下

注) ①1988~1989年の平均値。移植、出穂、成熟期は2か年の幅。②調査場所は農産研究所。
③稚苗は1.5~2.4L、ホト苗は3.7~4.1Lの苗を用い、施肥窒素量(kg/10a)は全区 5+1.5+1.5。

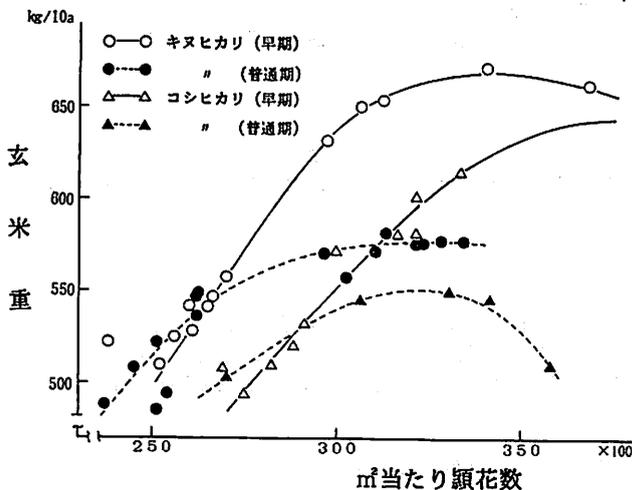
第2表 4月25日移植の基肥量と生育・収量

基肥量 Nkg/10a	稈長 cm	倒伏 程度	㎡当たり		玄米重 kg/10a	検査 等級
			穂数	穎花数		
5	79	0.2	403	308	548	1下
7	80	0.3	427	332	574	1下

第3表 6月6~8日移植の基肥量と生育・収量

基肥量 Nkg/10a	稈長 cm	倒伏 程度	㎡当たり		玄米重 kg/10a	検査 等級
			穂数	穎花数		
4~5	81	0.7	361	288	550	2上
6~7	81	0.5	377	304	553	2上

注) ①63~2年の平均値。②穂肥 I, II は各1.5kg。③調査場所は豊前分場。
注) ①63~2年の平均値。②穂肥 I は1.5~2.0kg、穂肥 II は1.5kg。③調査場所は豊前と農産。



第1図 単位面積当たり穎花数と収量

注) ①早期は4月20日~5月8日移植、普通期は6月8~10日移植。
②苗は稚苗で栽植密度は22株/㎡。
③63~2年に圃場や施肥量の異なる条件下でのデータである。キヌヒカリは全く倒伏はなく、コヒカリでも収量に影響する倒伏はみられなかった。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 福岡県「良質米生産技術指針」に追加記載する。
- 2 前作に野菜等を作付した場合の基肥量は、残存窒素量を考慮して減肥する必要がある。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名

63~2年度 福岡県農業総合試験場 農産研究所、豊前分場 夏作試験成績書